HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | 研究室報 |
| Citation | 独語独文学科研究年報, 20, 324-326 |
| Issue Date | 1993-12 |
| Doc URL | https://hdl.handle.net/2115/25969 |
| Type | other |
| File Information | 20_P324-326.pdf |

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

# 研　究　室　報

## 講　義　題　目　(1993年度)

| | | |
|---|---|---|
| 独語学概論 | | 清水　誠<br>植木迪子 |
| 独文学史概説 | | 石原二郎<br>青柳謙二 |
| 独　語　学 | 独語学の基本 | 植木迪子 |
| 独　語　学 | Landeskunde | 植木迪子 |
| 独　語　学 | 北ゲルマン語とドイツ語 | 清水　誠 |
| 独　語　学 | 『ニーベルンゲンの歌』研究の基礎 | 岡崎忠弘 |
| 独　文　学 | 19世紀半ばのグラビア雑誌 | 高橋吉文 |
| 独　文　学 | Schreiben und Textproduktion | Sigrid Holzer |
| 独　文　学 | Märchen の読解及び解釈 | Michael Haas |
| 独　文　学 | 文学テクストにおける「表出」 | 石原次郎 |
| 独　文　学 | テクスト読解の基礎 | 石原次郎 |
| 独　文　学 | 世紀転換期のオーストリアとムージルの世界 | 原　研二 |
| 独語学演習 | Problem der deutschen Syntax | 植木迪子 |
| 独語学演習 | 中低ドイツ語 | 清水　誠 |
| 独語学演習 | Sprache im Alltag | Franz Schneider |
| 独語学演習 | Linguistische Textanalyse | Franz Schneider |
| 独文学演習 | Einige moderne Erzählungen und deren Interpretationen | 青柳謙二 |
| 独文学演習 | Methodenprobleme der deutschen Literaturwissenschaft | 青柳謙二 |
| 独文学演習 | テクストにおける「比喩」の構造 | 石原次郎 |
| 独文学演習 | Gemeinsprache—Fachsprache—Lexikographie | Franz Schneider |

## 研　究　室　行　事　記　録

◎　1993年２月20日に北海道大学文学部301号室において1992年度卒業論文・修士論文発表会が開かれた。

◎　1993年には、文学部で下記の研究会がもたれた。

・５月８日／９日　「Chomsky : A minimalist program for linguistic theory を読む」

・６月５日　林　馨子　「Verb Projection Raising」

臼渕幸子　「Subjektivität und Topikalität im Deutschen」

**〈留学関係〉**

◎　1993年８月に小川　了氏がミュンヘン大学から留学を終え帰国した。

◎　1993年８月に荻原達夫氏がミュンヘン大学へ留学のため出発した。

◎　1993年９月に臼渕幸子氏がパッサウ大学へ留学のため出発した。

◎　1993年９月に清水　誠氏がオランダ・フローニンゲン大学へ留学のため出発した。

☆　1993年５月８日に年報の総会が行われ、幹事選出、入会報告等が行われた。

## 1992年度　論　文　題　目

**卒　業　論　文**

岡　田　麻　子：Ingeborg Bachmann《Ein Schritt nach Gomorrha》研究

奥　村　利　知：ニーチェとドストエフスキーの接点と差異（『ツァラトゥストラはこう言った』と『カラマーゾフの兄弟』を中心に）

国　田　志　保：中高ドイツ語における人の心情・性質を表す形容詞について

中　村　常　夫：トーマス・マンの『ヴェニスに死す』論

古　川　亜　希：「豹（Der Panther）」――リルケとその周辺

前　原　真　吾：Ein Dokument des schöngeistigen Jünglings.
――über »Hermann Lauscher« von Hermann Hesse.

村　上　由利子：『ニーベルンゲンの歌』――プリュンヒルトの変貌

山　本　由和子：F. Hohler „Der Abstecher“――『寄り道』

**修　士　論　文**

一　瀬　幸　司：ドイツ語場所前置詞の意味論的考察

田野中　純　子：E. T. A. ホフマン：『砂男』（“Der Sandmann”）研究

# 会　員　名　簿

| | | | |
|---|---|---|---|
| ◎青柳謙二 | 石川克知 | 石橋道大 | 石原次郎 |
| 伊藤祐紀子 | 岩井　洋 | 岩田　聡 | 植木迪子 |
| 臼渕幸子 | 梅津　真 | 江口　豊 | 岡田麻子 |
| ○小川　了 | 荻原達夫 | 小澤幸夫 | 加藤寛蔵 |
| 川島淳夫 | 川東雅樹 | 岸川良蔵 | 佐藤修子 |
| 佐藤俊一 | 塩谷幸子 | ※塩谷　饒 | 清水　誠 |
| 神　久聡 | 鈴木将史 | 瀬川修二 | 高橋　修 |
| 高橋吉文 | 田中　慎 | 田中　剛 | ○田野中純子 |
| 対馬　晃 | 寺田龍男 | ○中川勝昭 | 中祢勝美 |
| 名執基樹 | 西川智之 | 林　馨子 | 藤本純子 |
| 前原真吾 | 三浦國泰 | 最上英明 | 森田一平 |
| 山田恵子 | 山田善久 | | |

◎は会長、○は幹事、※は賛助会員。なお、次の方々には今回に限り特別寄稿していただきました。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 金子元臣 | 安高誠吾 | 山田貞三 | 吉田徹也 |

## 北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1．本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2．本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3．本会は上の目的達成のため下記の事業を行う。
　1）機関紙「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
　2）合評会、研究会、講演会等を随時行う。
4．本会員は北海道大学文学部独語独文学研究室の教官・院生（学生も含む）ならびにその趣旨に賛同するものによって構成される。
5．本会員は上の活動の遂行のため所定の会費を支払う。
6．本会は1名の会長と若干名の幹事をおく。幹事は会計および編集委員を兼任する。
7．本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。
8．本会の事務所は北海道大学文学部独語独文学研究室におく。
9．本会に賛助会員をおく。